

平成 28 年 4 月 26 日

増田 寛也

「成長と分配の好循環と保育士・介護職の人材確保について」

1 成長と分配の好循環の形成

- ・経済成長には、「労働」「資本」「生産性（TFP）」が必要であるが、この3つの要素についての制約を可能な限り取り除いていくことが重要である。一億総活躍社会の実現とは、まずは経済成長の隘路となっている人口減少のスピードを抑えることを最優先課題とした上で、少子高齢化による人口構造の変化に対応した産業社会構造への転換をはかり、若者、女性、高齢者などが質の高い雇用環境の下で働けるようにすることで労働生産性を向上し、さらにはその成果の公正な配分を通して国民所得を増加し消費を拡大し、持続的な経済成長にむけた循環を創りだすことを目指すものである。
- ・そのためには、増大する年金・医療・介護等の社会保障の効率化等を図るとともに、社会保障の安定化・持続可能性を高め、国民に安心と期待感を醸成することが重要である。アベノミクスの成果を、子育て・保育、介護の支援に大胆に分配し、少子高齢化対策に大胆に取り組むとともに、同一労働同一賃金の実現、非正規の処遇改善、最低賃金の引き上げなど労働の質を引き上げていくことに政治が強いリーダーシップでのぞみ、民間の協力を得ながらスピード感を持って実現していくことが重要である。
- ・「ニッポン一億総活躍プラン」では、こうしたメカニズムをできるだけわかりやすく示し、国民の理解を得て、取組みを加速すべきである。

2. 保育士・介護職の人材確保・処遇改善

- ・増大する保育・介護のニーズに対応し、サービスを拡大していくためには、保育士・介護職の人材確保を着実に進めていくことが不可欠である。
そのためには、①他産業並みへの給与の引き上げ、②キャリアパスの構築、③業務負担の軽減・両立支援の充実、が同時に進むような総合的な施策を打つことが重要。そのために必要な財源をしっかりと確保していくべきである。
- ・キャリアアップできる仕組みとして、単一法人や資格の種類毎に閉じられた労働市場から開かれた労働市場にしていくことも有効である。具体的には、医療における地域医療連携推進法人制度のような取組みを介護や保育にも適応し、小規模な法人のグループ化や他法人との連携による多様なキャリア形成の機会の提供や、保育士・介護福祉士等の福祉系の資格間、福祉系と看護等の医療系資格間で相互の単位認定等による資格の取得の円滑化な

どについても検討する必要がある。いわゆる「多能工化（マルチタスク）」を実現することで資格取得者の所得を増大させるとともに、人材をより有効に活用することで高齢者・障害者・子供等の対象者に合わせて「必要なときに必要なサービス」を提供できる体制を整え、福祉サービス全般の質の向上に繋げる。